

⑦対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング

事業者：藤田医科大学

柱③：地域居住・生活支援

対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング



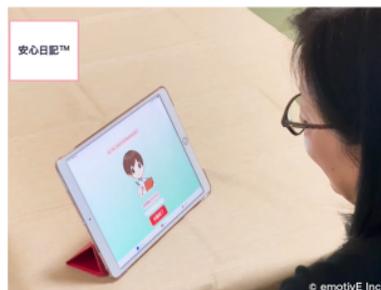
事業概要

<全体像>

- ・対話型ツールを用いて、健康・生活機能を持続的にモニタリング
- ・重点的に介入すべき高齢者を、効果的にスクリーニングする仕組みを構築

<サービス内容（予定）>

1. 対話型AIとの自然対話から健康や生活に関する情報を取得
2. 取得した情報を蓄積・統合・分析し、健康リスクを早期に発見
3. リスク早期発見後、個人の状態に合わせて必要なサービスを提案
4. 利用者の同意の上、自治体職員などの支援者に情報を共有（データ連携基盤との連携も想定）



対話のイメージ図



情報取得の一例

今年度の計画

豊田市（企画政策部未来都市推進課）と連携、以下の2つの実証を計画中。

<実証① ヒアリング調査>

時期：2024年度第一四半期～第三四半期

目的：・地域在住高齢者の生活支援（見守り等）に関する実態の把握

・提供予定サービスに対する意見聴取

対象：・地域在住高齢者の生活支援の関係者（豊田市市役所職員、民生委員など）

・地域在住高齢者

<実証② 短期間試用>

時期：2024年度第四四半期

目的：一部機能の短期間検証

対象：地域在住高齢者（5人程度）